



1 大手航空機メーカーの研究技術職から移籍した武久専務。年々任される責務が重くなり、自宅がある関東地方と鳥根を往復する日々が続く。「最近では鳥根暮らしの割合が大分増えました」
 2 創立60周年を記念してリニューアルした本社屋。企業理念にオーバーラップする三つの思い「鉄鋼」「未来」「本物」ファサードデザインに反映した
 3 業界で初めて導入した試験片加工の全自動システム
 4 ワイヤー放電加工機を集約、再配置したワイヤー放電加工職場
 5 スタイリッシュな雰囲気のある社内
 6 食堂兼シアタールーム。大規模な講演や研修なども行われる

**世界が認める高技術で
人々の安心安全を支え、
最先端材料開発にも貢献**

普段何気なく乗っている車や、子どもたちが公園で使う遊具。これらの安全性の陰には、数えきれないほどのテストが行われていることをご存知だろうか。国内最大級の独立試験所《株式会社キグチテクニクス》は、身近な遊具や自動車を始め、飛行機やロケットなどの航空宇宙、火力発電所などのエネルギー業界で使われる金属や複合材などの品質や性能評価を実施。国内外の「ものづくり」を支え、私たちの暮らしに安心安全を生み出すと共に、未来を創る最先端の技術にも大きな力を添えている。

「鋼の町」として知られる鳥根県安来市で1961年、高級特殊ヤスキハガネの研磨を手掛ける会社とし

て創業した。その技術を生かし、機械加工や試験部門に事業を拡大。試験会社としては後発組だったことから、ISOマネジメントシステムなどの国際規格を積極的に取得する戦略を進め、2010年には航空宇宙業界での国際的認証プログラム（Na daoap）を取得。GE（ゼネラル・エレクトリック）を始めとする世界3大航空機エンジンメーカーのすべてから認証を受けるなど、国内外の大手企業から高い評価を得ている。

同業他社に負けない特徴的な強みが、試験素材の切り出しから熱処理、加工、試験評価まで、全国でも数少ない一貫体制を築いていることだ。高品質、短納期、低コストを実現し、国際的な競争力を生み出した。年々増加する受注に応じて設備投資も積極的に進め、高温での材料特性を評価するクリープ試験機約350台、疲労試験機約80台を所有し、世界有

数の試験ラボとして認知されている。

**培った技術力を生かし、
新事業にも積極的に挑戦**

2019年には、米国市場での拠点と位置つけるアメリカ法人を設立。さらなる展開に向けて動き出した矢先、コロナ禍が襲い、主軸の航空機業界が大打撃を受けた。追い打ちをかけたのが、20年10月の「2050年カーボンニュートラル（CN）宣言」だった。「あれがすべてのスタートでした」と武久浩之専務。「高温材料の塊だったエンジンからEVへの開発シフトが一気に高まりました。自動車メーカーから大量に來ていたエンジン回りの金属材料高温試験の仕事が激減しました。しかし、危機感を露わにしつつも武久専務の顔に悲壮感はない。「ピンチはチャンス。本業である試験ビジネスをさらに成熟させ、航空業界で培った技術

を宇宙や新エネルギー分野に展開する動きを既にスタートさせています」大きなポイントになるのが、軽量化素材として需要が急増しているCFRP（炭素繊維強化プラスチック）。CN実現の鍵を握るとも言われている新素材だ。キグチテクニクスは20年、CFRP製の試作部品を創るためのラボを名古屋に設け、試験だけでなく、ものづくりから関わるチャレンジをスタート。本社新工場の一角には、CFRP加工設備を集約しており、試験業務の受注も伸びてきている。

コロナ禍を経て航空機需要が戻る中、NI（ニ）超合金の特性を最大限に引き出せる自社開発大型熱処理炉にも注目が集まっている。1300度以上の高温熱処理と急冷が可能な特殊熱処理炉で、特許も取得。プレートやディスクなどでの採用を狙う発電・航空関係からの視線が熱く、今



株式会社 キグチテクニクス

未来のものづくりを創造
世界を舞台に活躍

19
LEADING
COMPANY



株式会社 キグチテクニクス

業種 製造業、検査業

事業内容 試験片製作及び試験業務

創業 昭和36(1961)年11月1日
代表者 代表取締役 木口 貴弘
社員数 181名(男153名 女28名)
〒692-0057
島根県安来市恵乃島町114-15
TEL/0854-22-2619

<https://kiguchitech.co.jp/>

- 東日本事業所
- 中日本事業所
- 東京試験所
- 名古屋コンポジットファクトリー

求める人材像 Check!!

- 飛行機、車、機械いじりが大好きな方
- 浅くても、幅広い知識を持っている方(材料、機械、電機、プログラミング)
- 提案力があり独創性豊かな方
- お客様の立場でものを考えられる方
- 諦めない姿勢とこだわりを持ち、粘り強く取り組める方
- 簡単に「できません」といわず、明るく、いろいろな提案ができる方

資料請求・お問い合わせ先

採用直通 TEL

0854-22-2619

採用直通 E-mail

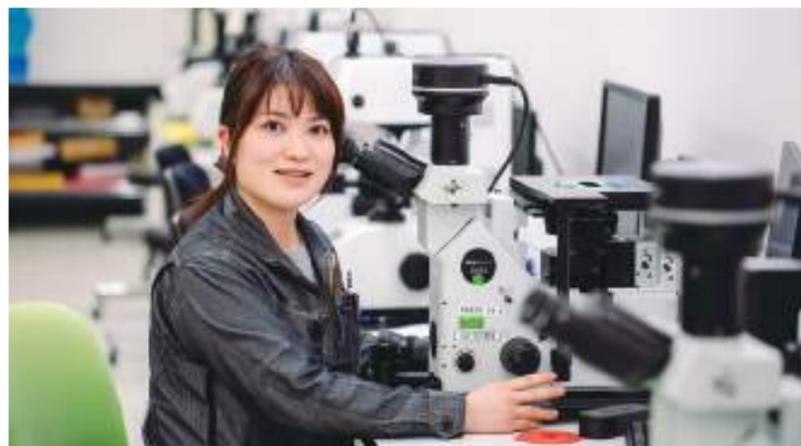
recruit@kiguchitech.co.jp

資料請求

インターンシップ

会社見学

公式サイトは
こちら



「金属に付着した原因不明の正体を探ることも。『答え』が出ない問題もあり、試験業務の奥深さを実感しています」と小林さん。当初の配属希望だった翻訳業務で活躍するためにも、試験知識の向上に余念がない

顕微鏡や電子顕微鏡で観察してミクロ組織を解析。電子顕微鏡を使えば、500マイクロメートルより小さな世界も見ることができるといふ。「化学や金属の知識が全くなかったので、肉眼では見えない世界を見られるというのが目新しく面白いです」入社2年目の小林さんには、行える試験業務が限られている。航空機材を扱う海外企業の認定を受けていないからだ。「まずは現場で技術を磨いたのち、先輩方のように海外メーカーの認定を受けたい」と意欲を見せる。得意な英語力を磨くことにも余念がない。「初めて見る工業単語も多く、ノートに書き出して覚えていきます」

変革し続ける。世界のキグチ。

昨年創業60周年を迎え、22年秋には木口貴弘新社長を主軸とする新体制がスタート。確固たる試験ビジネス基盤の下、新エネルギー発電所の保守メンテナンスや、金属粉末からの3次元積層造形などの新規事業創出にも力を入れる。一方、業務効率化を狙い、試験片加工の全自動システムを業界で初めて導入、大幅な納期短縮を可能にした。しかし、機械に任せるのは比較的単純な加工に留まる。「可能な部分は省力化し、キグチしかできない高難易度な加工や試験により技術力を注力したい」と武久専務。創業以来の強みを一層強化しつつも、変革を恐れないキグチは、CN時代も存在感を持って新たな道を切り拓いていく。



入社直後は、試験片のプログラミング作成にも1時間近くかかっていた箕浦さん。最近は簡単なものなら10分程度で仕上げ、微調整で完成させるといふ。「力量を上げ、より難しい加工にも挑戦していきたい」

難削材も高精度に加工

国内トップクラスの強みを誇る試験業務において、最初に必要な工程が試験片の製造だ。顧客に提供された素材から、指定の部位をワイヤー放電加工機や鋸盤などで切り出し、必要に応じて熱処理を行って小さなピースに加工する。製造2課の箕浦颯人さん(21)は主にNC旋盤を担当。顧客からの規格書をもとに自らプログラミングし、実際の加工までを手掛ける。「求められる形状や材

質は一社一社違うので、受注のたびにプログラムを作る必要があります」。高校では環境化学を学んでいたため、知識や技術は入社後に一から学んだという箕浦さん。平行部が直径わずか1ミリほどの極小ピースに仕上げたことも。「細くて曲がりやすい上、公差内に収めるのが非常に難しく苦労しました」

材料によっても加工の仕方が変わる上、旋盤では工具の種類や動かし方も制御する必要があり、さまざまな観点から注意が求められる。箕浦さんは、「航空宇宙関係の試験片加工など、特にミスが許されない重要な案件が多く、常に責任重大な緊張感があります」と顔を引き締める。

世界有数の試験ラボ

箕浦さんら製造部が作った試験片を用いて、材料特性や組織などを調べるのが試験部だ。強度試験課金属係の鳥谷侑吾さん(28)は、試験片を引っ張ったり、曲げたり、壊したりするなどして、強度や耐久性、安全性、靱性などを求める。最大600トンの荷重を掛けられる引っ張り試験機では、マイナス190度の液体窒素タンク内で試験を行ったり、逆に1000度を超える高温をかけたまま引っ張ったりすることも。切り欠きの入った試験片を高速で振り



試験課で扱う素材は、ニッケル基やチタン、アルミなど航空宇宙業界でニーズの高い構造材料がほとんどだが、時にはプラチナなど非常に高価なものも。「ちょっと緊張しますよね」

下ろしたハンマーで破壊する衝撃試験もある。「いろいろな材料が来るから分からないというのは、大変ですが、楽しみでもあります」

航空宇宙関係の仕事に注力してきた会社の姿勢に将来性を感じ、入社を決めた鳥谷さん。社内では日常的に、大手自動車メーカー各社やJAXA(宇宙航空研究開発機構)などの名前を目にし、世界を相手にしている会社だと実感することも少なくない。入社8年目となった今春からはグループリーダーとして職場をまとめる立場になり、さらなるス

キルアップとコミュニケーション力向上に力を入れる。

ミクロ組織の解析も

海外企業の認証を多数持つキグチテクニクス。大学で学んだ英語の力を生かせるかと考え門を叩いたのが、疲労試験課組織解析係の小林大子さん(24)だ。翻訳業務などが第一希望だったが、すべての部署を経験する研修を経て、試験業務にも興味が出てきた。「翻訳の部署に頼らなくても英語の規格書を読むことができるなど、学んだ知識は役立っています」。薬品で腐食させた金属表面を、光学